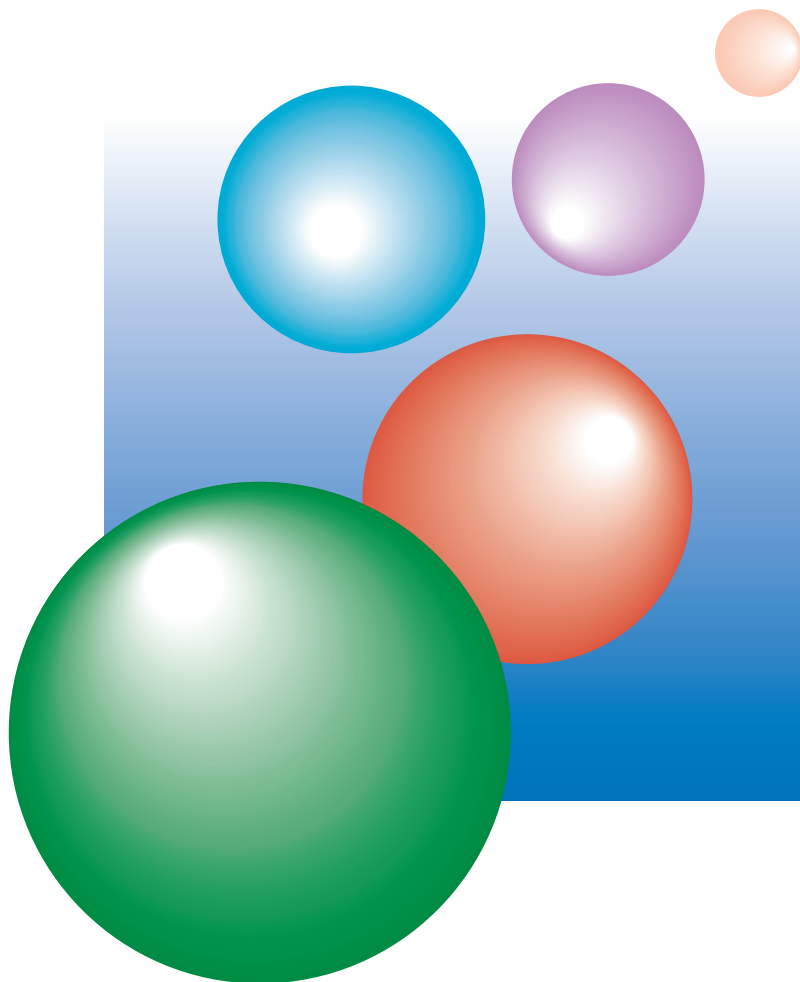




第68期中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様には、格別のご高配にあずかり、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第68期第2四半期（2018年4月1日～2018年9月30日）の営業概況につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国、欧州ともに個人消費などに支えられ回復傾向が継続し、中国をはじめアジア地域においても景気は底堅く、総じて堅調に推移いたしました。また、我が国経済も台風や豪雨等の自然災害の影響があったものの、世界経済の成長と内需に支えられて緩やかな拡大基調にありました。

このような環境にあって、当企業グループは、お客様のニーズに迅速かつ的確に対応することにより、国内メーカーからの新規受注獲得に努めるとともに、欧米、中国、インド、アセアンを重点としたグローバル展開を推進してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は297億64百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は23億82百万円（前年同期比22.3%増）、経常利益は25億35百万円（前年同期比15.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億72百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

軸受機器

オイルレスベアリングは無給油あるいは給油の回数や量を大幅に減少させることができ、省資源・環境への配慮の観点から自動車をはじめ各種産業機械などに幅広く採用されております。

一般産業機械向け製品は、前年に引き続き射出成型機や産業車両向け製品の受注が好調なことなどにより、売上は増加いたしました。自動車向け製品は、中国を中心としたアジア地域の自動車メーカーとの取引が引続き堅調に推移しました。

この結果、軸受機器の売上高は228億70百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は23億15百万円（前年同期比9.4%増）となりました。

構造機器

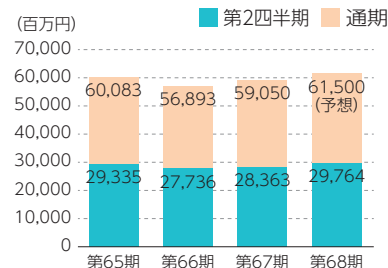
オイルレスベアリングの長年にわたる研究開発で培ったトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）技術から派生して開発された免震・制振の技術は、人命、社会的財産や都市機能などを地震から守ります。

建物向け製品は、昨年の受注を大きく上回り売上は増加いたしました。橋梁向け製品は、前年並みの売上を確保いたしました。

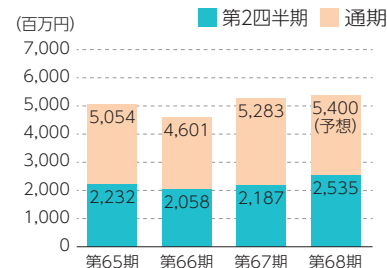
この結果、構造機器の売上高は35億92百万円（前年同期比18.3%増）、セグメント利益は1億54百万円（前年同期はセグメント損失1億31百万円）となり、利益を確保することが出来ました。

営業成績および財産の状況の推移（連結）

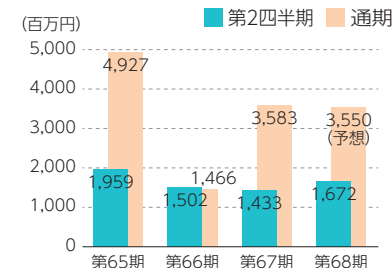
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益





建築機器

風、太陽光を自在に操り、快適で安全な室内環境を実現する建築機器製品は高層ビル、公共施設、病院や住宅などあらゆる建築物に採用されております。

外付けブラインドは、積極的な営業活動が奏功し売上は増加しましたが、主力製品であるウィンドウ オペレーターは新規物件およびリニューアル物件共に受注が減少いたしました。

この結果、建築機器の売上高は25億72百万円（前年同期比5.3%減）、セグメント損失は96百万円（前年同期はセグメント損失31百万円）となりました。

当期の中間配当につきましては、株主の皆様への安定的かつ継続的な配当という基本方針を踏まえ、1株につき25円を実施させていただきます。

今後の見通しにつきましては、顧客視点を第一に、グローバル市場での受注・開発・生産活動を強化してまいります。軸受機器事業は、海外での成長をより確実なものとするためのここ数年の取組みが奏功しており、グローバルな事業展開をさらに加速させることで、販売拡大に努めてまいります。

構造機器事業は、当社の強みを発揮できる市場の形成に注力することで競争力の確保を図るとともに、一層のコスト改善策による効率化を進め、収益改善に取り組んでまいります。

建築機器事業は、ウィンドウ オペレーターのリニューアル物件の獲得と、省エネに有効な外付けブラインドの認知度を向上させるための販売促進活動を強化し、売上拡大に努めてまいります。

これらの施策により、当期におけるグループ全体での売上高は615億円、営業利益は52億円、経常利益は54億円を見込んでおります。

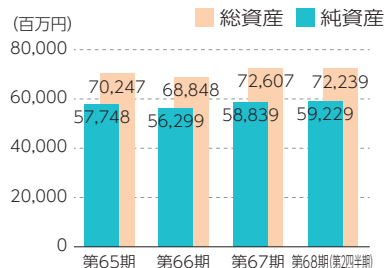
株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

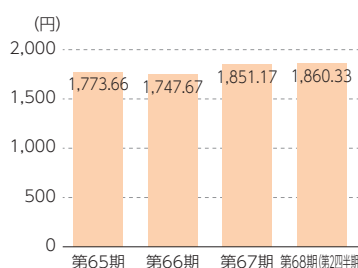
代表取締役社長

飯田 昌弥

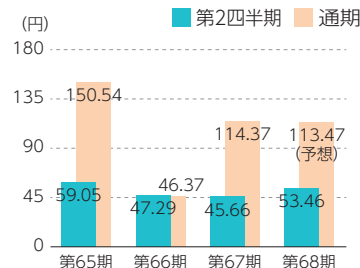
総資産・純資産



1株当たり純資産



1株当たり当期純利益



※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等の適用により、第65期以降に係る「総資産」については当該会計基準等を通じて適用した後の数値となっております。

四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

期 別	前期末 (2018年 3月31日)	当第2四半期末 (2018年 9月30日)	期 別	前期末 (2018年 3月31日)	当第2四半期末 (2018年 9月30日)
科 目			科 目		
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
① 現金及び預金	15,409	14,407	支払手形及び買掛金	6,466	6,366
② 受取手形及び売掛金	18,572	17,810	未払法人税等	810	642
有価証券	1,499	1,499	賞与引当金	1,089	1,119
商品及び製品	3,426	3,549	役員賞与引当金	103	49
仕掛品	2,510	3,190	株主優待引当金	45	—
原材料及び貯蔵品	2,407	2,470	その他	3,626	3,169
その他	974	909	流動負債合計	12,142	11,348
貸倒引当金	△51	△50	固定負債		
流動資産合計	44,748	43,787	役員退職慰労引当金	56	48
固定資産			退職給付に係る負債	607	554
有形固定資産			その他	961	1,058
建物及び構築物（純額）	6,901	6,567	固定負債合計	1,625	1,661
機械及び装置（純額）	4,748	4,687	負債合計	13,767	13,010
土地	2,921	2,911	純資産の部		
③ その他（純額）	3,517	4,522	株主資本		
有形固定資産合計	18,088	18,689	資本金	8,585	8,585
無形固定資産	683	623	資本剰余金	9,615	9,679
投資その他の資産			利益剰余金	41,726	42,616
投資有価証券	6,749	7,011	自己株式	△5,449	△5,429
退職給付に係る資産	127	128	株主資本合計	54,478	55,451
その他	2,225	2,014	その他の包括利益累計額		
貸倒引当金	△15	△15	その他有価証券評価差額金	2,175	2,351
投資その他の資産合計	9,086	9,139	④ 為替換算調整勘定	1,460	650
固定資産合計	27,859	28,452	退職給付に係る調整累計額	△281	△228
資 産 合 計	72,607	72,239	その他の包括利益累計額合計	3,353	2,773
			非支配株主持分	1,007	1,004
			純 資 産 合 計	58,839	59,229
			負債純資産合計	72,607	72,239

POINT① 現金及び預金

大分工場新設のための資金需要があり減少いたしました。

POINT② 受取手形及び売掛金

3月末に売上高が増える傾向にありますので、受取手形及び売掛金が減少しております。

POINT③ その他（純額）

建設中の大分工場への投資のため増加いたしました。

POINT④ 為替換算調整勘定

為替相場が円高へ振れたため、在外子会社の邦貨建て純資産が減少いたしました。

四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

期 別 科 目	前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
① 売上高	28,363	29,764
売上原価	18,532	19,252
売上総利益	9,831	10,512
販売費及び一般管理費	7,882	8,129
営業利益	1,948	2,382
営業外収益		
受取利息	43	44
受取配当金	72	84
② 為替差益	113	18
その他	170	113
営業外収益合計	399	260
営業外費用		
支払利息	9	7
デリバティブ評価損	136	87
その他	13	12
営業外費用合計	160	107
経常利益	2,187	2,535
特別利益		
投資有価証券売却益	35	0
負ののれん発生益	0	—
特別利益合計	35	0
特別損失		
固定資産処分損	5	6
減損損失	31	13
投資有価証券売却損	1	—
特別損失合計	38	19
税金等調整前四半期純利益	2,185	2,515
法人税等	685	782
四半期純利益	1,499	1,733
非支配株主に帰属する四半期純利益	65	61
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,433	1,672

POINT① 売上高

軸受セグメントでは、一般産業機械向け製品が好調であり、自動車向け製品は、中国を中心としたアジア地域の自動車向け製品の取引が堅調に推移いたしました。構造セグメントでは、建物向け製品が、昨年の受注を大きく上回ることにより売上が増加いたしました。

POINT② 為替差益

当期においては円高基調に伴い為替差益が減少いたしました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

期 別 科 目	前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,217	2,132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,554	△2,262
財務活動によるキャッシュ・フロー	△952	△803
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	△337
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	736	△1,271
現金及び現金同等物の期首残高	16,419	16,208
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,156	14,936

製品トピックス

軸受機器

排気系バルブ軸受に当社#550が採用されています

自動車業界においては、新興国を中心に市場が拡大成長する一方で、大気汚染、地球温暖化といった環境問題の深刻化が懸念されています。世界的な環境規制強化を背景に、CO₂を含む排出ガスの低減、燃費向上を可能とするグリーンかつエコなエンジンの開発ニーズがさらに高まっており、それに伴い排気系部品の性能向上が不可欠となってきています。昨今では、廃熱回収、排気効率の向上等を目的に排気システムに制御バルブを搭載する車種が増えており、バルブの支軸用軸受に対するニーズが増加しています。

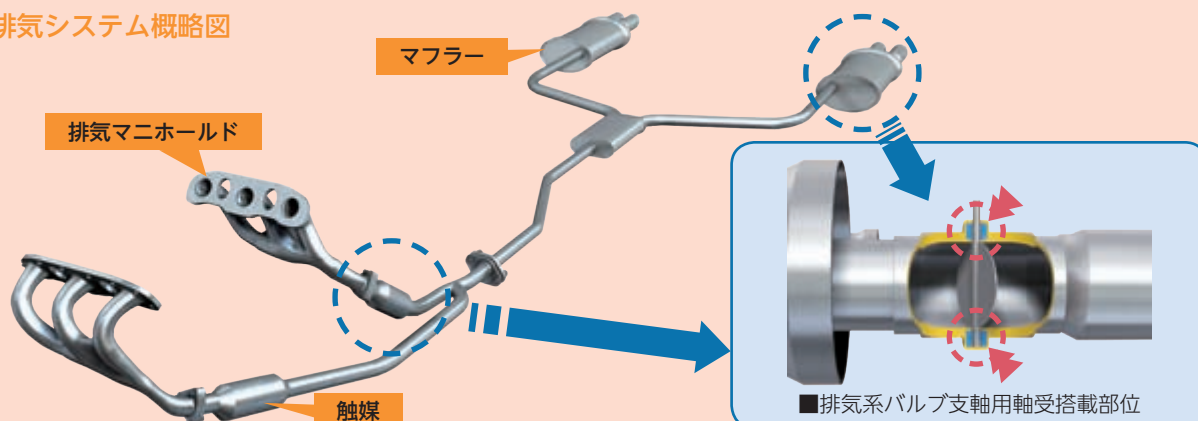
当社の#550は排気管用の球面継ぎ手として国内メーカーを中心に採用いただいておりますが、長年培ってきた技術を応用し、バルブ支軸用軸受としても採用が増えていきます。オイレス#550は優れた自己潤滑性と耐熱性能に加え、シール性能も有していることから部品点数の削減が可能であり、当社の軸受技術が排気システムの性能向上、コスト低減に貢献しています。

今後も、当社のコアテクノロジーである、トライボロジー技術と高度な生産技術、品質管理により環境対応、燃費向上に貢献できる製品の創出に努めてまいります。



■オイレス#550

■排気システム概略図





構造機器

阿蘇長陽大橋の復旧にすべり支承が貢献

2016年4月に発生した熊本地震では多くの人命が失われ、建築物も橋梁も多くの被害を受けました。

地震後、孤立状態となった南阿蘇地域へのアクセスを早期に復旧させるため、「阿蘇長陽大橋」の復興政策が国の威信をかけて進められることとなりました。

当社はいち早く現地での被害状況を確認し、設計・施工会社への迅速かつ確実な提案を行った結果、コンパクトすべり支承HPBが採用さ

れました。HPBは支承高さをおさえたコンパクトな形状であるため、橋梁補修などの支承設置空間の余裕が少ない場合にも適用し易い構造となっており、早期復旧が優先される本工事に最適な提案となりました。

南海・東南海トラフ地震、首都直下型地震などで想定される大型地震に対する安全性確保が喫緊の課題とされています。当社は免震・制震製品および同技術により皆様に更なる安心・安全を提供してまいります。



■コンパクトすべり支承 HPB



■コンパクトすべり支承 HPB設置位置【阿蘇長陽大橋（橋長276m）】



建築機器

外付けブラインド ブリユが箱根小涌園 天悠で採用されました

「身も心も自然にゆだねる。」自然と和のおもてなしをコンセプトにした箱根小涌園 天悠で当社の外付けブラインド ブリユが採用されました。

外付けブラインドは窓の外に取付けるブラインド。日射や外からの視線を遮りつつも採光、換気や風通しを可能にして、住まう人に快適さや安心感をお届けする多機能ブラインドです。

今回、箱根小涌園 天悠のすべての客室に設置されている露天風呂を快適に使用したいというお客様のご要望に合わせ、従来の設置位置は窓の外側ですが、バルコニーの外側に設置できるよう改良。



誰でも簡単に操作できることにこだわった操作ハンドルを採用し変わりやすい箱根の気候でも快適に使用できるようブラインド同士がぶつかる音鳴りにも配慮しました。またブラインド使用中においても部屋からの景観や建物の外観を損ねないようにデザインに工夫を凝らし、たくさんの自然に囲まれた環境や過ごす方々の快適さを損なうことなく施設に寄り添うことを実現しています。

外付けブラインド ブリユは住宅だけでなく、快適さや癒しを求め人が集う空間を支える製品としてその活躍の幅を広げており、当社は今後あらゆる側面からお客様の更なる快適さを追求、提案していきます。

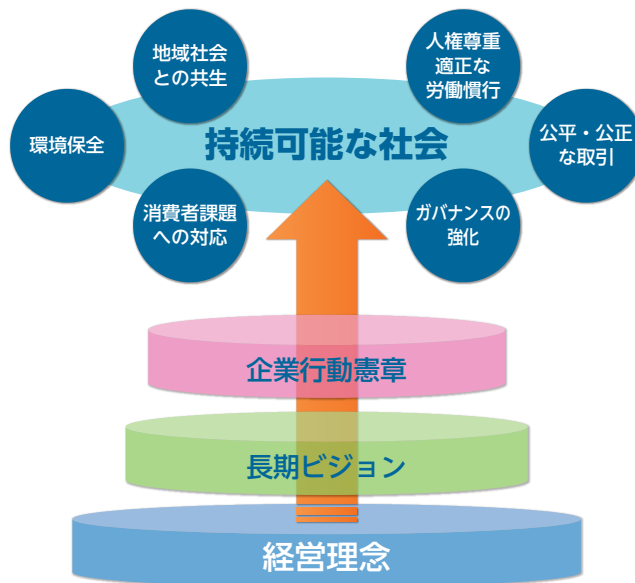
CSR（企業の社会的責任）の取り組み

オイレスグループのCSRの考え方

オイレスグループは、経営理念に描いた「オイレスベアリングの総合メーカーとして世界のリーダーとなり、技術で社会に貢献する」ことを目指す中で、私たちにしかできない技術の追求によって持続可能な社会の構築に貢献していきます。その過程では、長期ビジョンやオイレスグループ企業行動憲章に基づく誠実かつ公正な事業活動を通じて、

1. 「ガバナンスの強化」
2. 「消費者課題への対応」
3. 「環境保全」
4. 「人権の尊重と適正な労働慣行」
5. 「公平・公正な取引」
6. 「地域社会との共生」

という6つのCSRの重点項目を実践することで、グローバル市場において信頼される企業であり続けます。



CSR報告書

当社は2017年からCSR報告書を作成しており、内容は当社WEBサイトでご覧いただけます。

<http://www.oiles.co.jp/corporate/csr/>

報告書に関するご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<https://www.oiles.co.jp/contact/>



株式に関するご案内



■単元未満株式買取制度について

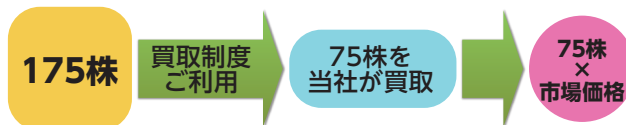
当社株式の証券市場での取引は、100株（1単元）単位となっているため、単元未満株式（1～99株）は、市場で売買することができません。単元未満株式につきましては『単元未満株式の買取請求』により当社に買取を請求し、市場価格で売却（現金化）することができます。

この制度をご利用になる場合は、下記の口座管理機関にお問い合わせください。なお、当社は単元未満株式の買取制度は採用しておりません。

具体例 .1 50株ご所有の場合



具体例 .2 175株ご所有の場合



※当社では過去に株式分割をおこなったことを受けて、単元未満株式を保有いただいている株主様が多くおられます。

《買取請求に関するお問い合わせ先》

証券会社等の口座に記録された株式→**お取引の証券会社へ**

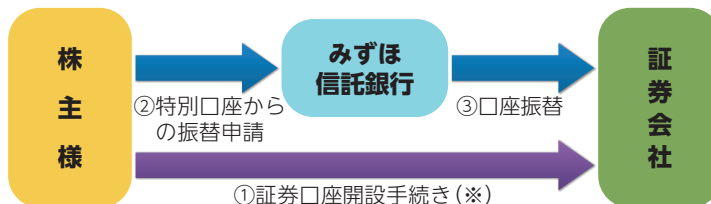
特別口座に記録された株式→前ページ(株主メモ)に記載の**みずほ信託銀行証券代行部へ**

■特別口座から証券会社等の口座への振替について

株券電子化に伴って、証券会社等を通じて証券保管振替機構に株券を預託されなかった株主様の株式は、株主様の権利を守るため、みずほ信託銀行に開設された特別口座に記録されています。

特別口座にて管理されている株式を市場で売却するには、株主様が証券会社等に口座を開設したうえで、株式の振替（口座振替）手続きをおこなっていただく必要があります。口座振替を希望される株主様は、前ページ（株主メモ）に記載のお問い合わせ先へご連絡いただき、口座振替手続きをおこなってください。

※特別口座とは、株券電子化（2009年1月5日）前に、証券保管振替機構に株券を預託されなかった株式を管理するために、当社がみずほ信託銀行に開設した口座です。



※すでに証券会社等に口座をお持ちの株主様は①の手続きは不要です。

《特別口座の口座振替に関するお問い合わせ先》

みずほ信託銀行証券代行部

※詳細は前ページ（株主メモ）をご参照ください。

株主さま向け アンケート

株主の
皆さまの声を
お聞かせください



当社では、
株主の皆さまの
声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施します。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力を
お願いいたします。

下記 URL にアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>



アクセスコード
6282

いいかぶ

検索



空メールにより
URL 自動返信



kabu@wjw.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用の URL が直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右の QRコードからもアクセスできます。
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから
約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝
(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。